

町では、高齢者等に対し、移動手段の確保および健康増進を目的に、実証実験として4月から1年間利用できる、タクシー券と温泉券の2種類の助成券を交付します。今年度は青色の券になります。

【対象者】 ①～②の条件を全て満たしている方が対象となります。

①令和3年3月31日現在で80歳以上の方 ②石川町に住所を有する方

※介護保険施設（特別養護老人ホーム、老人保健施設、療養型医療施設）や認知症対応型共同生活介護施設（グループホーム）へ入所している方は対象外となります。

※80歳未満の方で重度心身障害者に該当する方は「重度心身障害者タクシー料金助成事業」をご利用ください。

【助成内容】（一人最高10,000円分 申請時期によって交付枚数が異なります。）

①4月から9月までに申請した場合（10,000円分）

- ・タクシー券 5,000円分（500円×10枚）
- ・タクシー券または温泉券 5,000円分（500円×10枚）

②10月から3月までに申請した場合（5,000円分）

- ・タクシー券 2,500円分（500円×5枚）
- ・タクシー券または温泉券 2,500円分（500円×5枚）

【利用条件】

- ・タクシー又は温泉券は、利用時にどちらか選択してご利用ください。
- ・1回の利用につきタクシー券は4枚（2,000円分）、温泉券は2枚（1,000円分）まで使用可能です。おつりは出ません。
- ・タクシーの乗車は午前7時から午後9時までであること。
※町外からの乗降も対象となります。
- ・助成券の再交付はできません。
- ・申請は、①、②のいずれか、一人1回の申請となります。

【利用期間】

令和3年4月1日～翌年3月31日まで（1年間）

【申請窓口】

石川町役場 保健福祉課（令和3年4月1日より受付開始）

【申請に必要なもの】

- ・印鑑 ・本人確認書類（後期高齢者医療被保険者証、マイナンバーカード等）

【利用できるタクシー会社】

マルイチ牡丹タクシー 26-0001

【利用できる温泉施設】

- ・井筒屋 26-1131
- ・西田屋 26-1012
- ・しおや 26-6188
- ・八幡屋 26-3131（※1回入浴不可）
- ・薬王館 26-2206
- ・ホテル下の湯 26-4101
- ・高蔵内源泉 26-5111

【お問い合わせ：石川町役場 保健福祉課 高齢福祉係 TEL0247-26-9124】

誰もが住み慣れた地域で
最期までいきいきと
心豊かに暮らせる社会に向けて



本町でも支え合える地域づくりに向けて各地区で話し合いが始まっています。
誰もが住み慣れた地域で、いつまでも安心して暮らし続けられるよう、一緒に助け
合いの地域づくりを考えていきましょう。

令和3年2月に開催された「生活支援体制整備事業協議体会議」の様子

第3弾

新しいふれあい社会

これからの「助け合い」を
どう進めるか。

役場正庁において、2月25日・26日の2回に分けて、「生活支援体制整備事業協議体会議」が開かれました。

『生活支援体制整備事業』とは、生活の中での「ちょっとした困りごと」など高齢者の生活を支えるための支援の仕組みづくりを進めていく取り組みです。

★高齢になつてくると介護を受けるほどではなくても「ちょっとした困りごと」が増えます。地域での声かけや見守りが住み慣れた我が家で暮らししていくには大きな支えとなります。会議では、町の高齢者の現状や介護保険の説明を聞き、「支え合いがなぜ必要になるのか」「支え合いをどう進めていくか」について話し合いました。

国では、団塊世代の最後の世代が2025年に後期高齢者になることに合わせて、医療費や介護費などの社会保障費が増えてくること、就労人口が減り介護に従事する人材が減ることを懸念し、平成27年に介護保険法の一部改正で「生活支援体制整備事業」が追加されました。

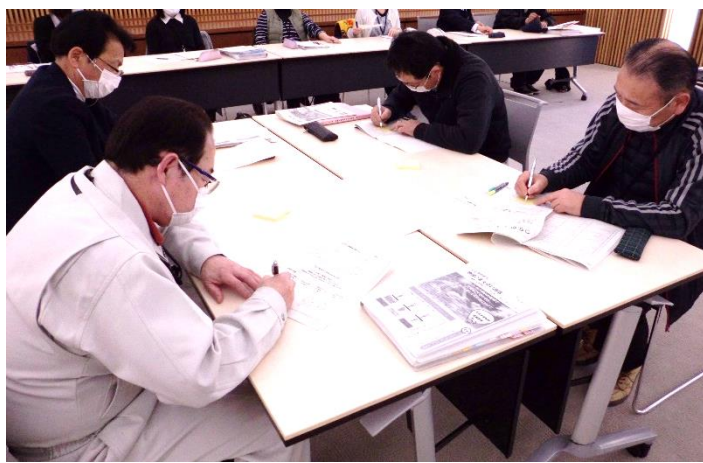
現在、単身世帯や高齢者世帯が増えてくる中、老老介護や長寿社会になると認知症への不安も増えてきます。住み慣れた我が家で安心して暮らし続けられるよう「支え合いや助け合いができる地域づくり」をみんなで考えていく大切な時期になっています。

各地区の福祉部会の活動の様子

石川町では、各地区の自治協議会福祉部会で高齢者支援について話し合いが始まっています。町全体でも隣近所の声かけ合いや支え合いをどう進めていくか「我が事」として考え、身近な地域での支え合いについて一緒にすすめていきます。

「生活支援体制整備事業」協議体会議の内容は・・・

「協議体」とは、地域で高齢者を支援する各団体、関係者のネットワークづくりをして、情報共有や連携を行いながら地域の支え合い活動を発展させ進めていく場です。



自分が高齢者になったらどんな困りごとが出てくるのか・・・

会、民生児童委員、保健協力員、生活改善推進員、更生保護女性連絡協議会、運動サポーター、長寿会、シルバ一人材センター、JA夢みなみ、地域包括支援センター等です。

「地域の支え合い」が必要になる理由

町の高齢化率や高齢者世帯数の推移、介護給付費等が少しずつ増え、さらに、介護の人材不足が懸念されています。団塊世代が後期高齢者の仲間入りする2025年には、全国で377万人（福島県では約6,066人）が不足すると言われ、介護サービスを使いたくても使えない時代がくると予測されています。

一人暮らしや高齢者世帯の増加に伴い、老老介護や認知症の方が増えてくることも合わせて、身近な隣近所の方の見守りや声かけができる地域づくりが必要となります。

話し合いの中では、自分が高齢者になったときにどんなことで困るだろうと考え、意見を出し合いました。

話し合いで出された「高齢者の生活の上での困りごと」では、「買い物」や「電球交換」、「灯油入れ」、「ゴミ出し」、「高いところの掃除や片付け」、

「話し相手」、「移動手段」などたくさん意見が出されましたが、声をかけてもらえれば専門家でなくても、ついでにできそうなこともありました。

「気兼ねなく頼める仕組みづくり」

福祉部会では、ちょっとした困りごとなど、気兼ねなく頼めるよう、相談できる仕組みづくりを「有償ボランティア」という形で検討を始めていくことになっています。

また、石川地区においては福祉部会がないので、行政区内での検討を進めていければと考えています。

「近所だけではなく、支え合いに協力いただける人も募りながら、自分の地域にあった「支え合い」を作り出していければ、より自然な形で助け合いが行われるのではないかと思います。

「行政区のつながりやシニア世代の社会参加が求められている」

「近所の見守りや声かけ等の支え合い、また、元気なシニア世代の方の積極的な社会参加は、支援を必要とする高齢者を支える役割として期待されています。

困った時は
お互いさま

母畑

4月15日に令和3年度第1回福祉部会を開催しました。

新型コロナウイルス感染症予防のため、マスク着用、3密の回避、換気の徹底を守りながら、短時間で令和2年度の活動報告と令和3年度の活動計画を検討していただきました。

主な活動内容は、

- ①高齢者タクシー・温泉助成事業申請補助（未申請の高齢者への声かけ・代理申請等）
- ②各種研修会・勉強会の参加
- ③自主防災部会との連携（災害時の高齢者や身体に障がいのある人への声かけ・手助けの連携）

「コロナ禍により福祉部会の活動が制限される中、「できる」ことを検討し、地域の住民一人ひとりが安心して暮らせるよう地域福祉の向上に取り組んでいきたいと思っています。

【母畑福祉部会 永沼】

野木沢

2年度は「コロナ禍ということもありミニデイサービスやサロンについてはなかなか再開しにくい状況がありました。2月には第2回福祉部会会議が開かれ、今後の活動内容について支え合い活動に向けての理解と計画について説明を聞きました。

【野木沢福祉部会】

沢田

『尊敬をもって、最後まで自分らしくありたい。』
誰もがそう願いますが、それを阻む深刻な問題のひとつに「認知症」があります。

沢田地区健康福祉部会では昨年12月に、「認知症を学び地域で支えよう」をテーマに「認知症サポーター養成講座」を開催しました。地域包括支援センター職員による講話や、寸劇でのリアルな演技で、認知症についての知識や関わり方、対応などをわかりやすく学ぶことができました。参加した方からは、「身近なこととしてみんなで温かな目で見守り、自然に支援していくことが大事だと感じた。」などの声がありました。

今後は、各地区単位での開催を計画していきたいと考えています。

【沢田健康福祉部会 水野】



山橋

第2回福祉部会を3月26日に開催し、「認知症サポーター養成講座」を受講しました。

認知症の病気や上手な対応の仕方などをわかりやすく学ぶことができました。長寿社会では認知症に罹患する人も増えてくると言われる中で、「本人やご家族だけでなく、身近な近所として認知症を正しく理解している」とは何より心強いと思います。

今後については、各地区単位で聴くことができるのかなと思います。

【山橋福祉部会】

中谷

昨年から続く新型コロナウイルス。各地区の健康サロンも中止となり、これまでの集いの場がなくなっていました。収束の目途が立たない今、活動を途絶えさせないよう地域の皆さんの力になれる「つながっぺ」通信を通じて、前向きに活動が再開できるような情報提供をしていきたいと思っています。また、足踏み状態だった訪問活動も再開を目指して、部会一丸となって頑張っていきたいと思っています。

中田サロンでは規模を縮小して少人数での「ミニ茶話会」を実施しています。また、「中田サロン通信」を作成し、区内にサロンの様子をお知らせしています。

【中谷福祉部会 吉田】

